

# ぼむ・ぼむ通信

No. **58**

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



©日本ユニセフ協会／2012

## ～アンゴラスタディーツアーから～

ぼむ・ぼむ通信 No. 58

### 目次

|                                            |    |
|--------------------------------------------|----|
| ◇アフリカ干ばつ緊急募金 ～サヘル地域 チャド、モーリタニア、ブルキナファソの状況～ | 1  |
| ◇知っとこ。ユニセフ 女子教育 「国際ガールズデー」                 | 5  |
| ◇世界の子どもたちは今 アンゴラ                           | 6  |
| ◇CO・OPコアノン スマイルスクールプロジェクトの取り組みについて         |    |
| ＊第2期募金額の報告と第3期開始について                       | 7  |
| ＊「ユニセフ アンゴラスタディーツアー」報告                     | 8  |
| ◇生協のユニセフ支援活動                               | 12 |
| ＊鳥取県生協連 ＊コープおおいた                           |    |
| ◇トピックス                                     |    |
| ＊ もう お読みになりましたか 『世界子供白書2012-都市に生きる子どもたち』   | 14 |
| ＊ 第34回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金                   | 15 |

### ぼむぼむ通信 活用のすすめ

- ・ すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ・ ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- ・ 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・ 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- ・ 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



## アフリカ干ばつ緊急募金

### ～サヘル地域 チャド、モーリタニア、ブルキナファソの状況～

昨年、過去 60 年で最悪の干ばつがアフリカ東部の「アフリカの角」地域を襲い、その被害は、アフリカ中・西部のサヘル地域にも拡大しました。サヘル地域では 9 カ国、1,800 万人を巻き込む大規模な食糧・栄養危機を引き起こし、今でも大勢の子どもたちを苦しめています。ユニセフは、命の危機にある子どもたちを 1 人でも多く守るため、各地で全力の活動を続けています。

本号では、サヘル地域の 3 カ国、チャド、モーリタニア、ブルキナファソの状況についてまとめました。



(資料: 日本ユニセフ協会より)

#### ◆ チャド ～干上がる湖、飢える人々～

ボルの町は、かつてチャド湖畔にありました。当時、チャド湖は淡水湖としては、アフリカでも有数の大きな湖でした。しかし、チャド湖は 1960 年以来、90%も縮んでしまいました。あと 20 年で完全になくなると警告する科学者もいます。



©UNICEF/NYHQ2011-21756/Patricia Esteve  
かつてはここもチャド湖のすぐそばだった。  
今では干上がった状態となっている。

「若い頃、チャド湖はとても美しく、水も食糧も豊富でした。」チャド保健省に 20 年勤めているヤコウラ・マルームさんは、干上がった湖の跡を歩きながら説明します。「水は命そのものです。今は十分な量が確保できないので、みんなが苦しんでいます。人々は農業に従事していますが、草が少なく、牛たちは乳を出すことができません。」

結果として、この地域、並びにチャド全体で栄養不良が増えています。栄養不良は、5 歳未満児の死亡原因の 3 分の 1 に関係していると言われます。ヤコウラさんは、町の女性や子どもたちのことを心配しています。

配しています。

チャド湖の縮小のせいで仕事を失った男性たちは、みんな近隣諸国に働きに出ています。困るのは、残された妻や女性たちです。チャドでは結婚してすぐに子どもを生みます。伝統から、女性たちは自分たちで物事を決めることが許されません。子どもの健康にしても、教育にしても夫にすべてお伺いをたてなければならないのです。男性がここにいない、ということはここで囚われの身になっているようなものなのです。夫たちが送ってくる小額のお金だけを頼りにほそぼそと生活するしかないのです。

チャド湖に残された資源をどうやって保っていくのか、2010 年に、近隣諸国政府とチャド政府の話し合いが行われました。しかし、チャドの人々は遠いところで行われている討議に関係なく、自分たちの生活を守るために立ち上がっています。サレ・スグブさんは、「環境保護協会」という小さな団体を立ち上げました。砂漠化の影響を受けている村に、植物を植えようという 50 人の若者たちが集まって作った団体です。「植物を植えることで砂漠化を防げると思っています。人々が植物の大切さを知り、植物を守ってくれることを期待しています。」とスグブさんは語ります。自分たちのために、そして未来の子どもたちのためにまだできることはあります。

#### ◆ モーリタニア ～乳幼児のための栄養プログラム～

モーリタニアも、サヘル地域の干ばつ危機による深刻な影響を受けています。2012 年中に、9 万人ものモーリタニアの子どもたちが、重度の急性栄養不良に苦しむ可能性があると推定されています。ユニセフは、世界食糧計画(WFP)やパートナーである NGO 組織と共に、栄養不良率が危険域に達している地域で、保健省が実施している包括的栄養プログラムを支援しています。3 つの地域で、ユニセフは、栄養補助食品を提供し、このプログラムを実施する保健員の研修を行っています。

遊牧民が暮らしている小さなボウグハドール村は、干ばつによる大きな影響を受け、栄養危機に見舞われています。この村に住むゼニボウ・ミントムスタファさんは、サルマちゃん(1 歳)とマリウムちゃん(1 歳 11 ヶ月)の二人の娘を連れて、栄養不良の検査と補助食品を受け取りにやってきました。ゼニボウさんは、地域の看護師から、子どもたちによい食べ物を支援するというこのプログラムのことを知りました。



©UNICEF/NYHQ2012-0469/Mia Brandt  
ユニセフが支援するモーリタニアの栄養治療センターで  
栄養強化ミルクを準備する保健員たち。

サルマちゃんは、母乳と水しか与えられておらず、すでに中度の栄養不良に陥っていました。姉のマリウムちゃんは、最近、熱と下痢に苦しみ、同じく栄養不良に陥る危険にさらされています。保健省の国家栄養局のロウグヒエトウ・ディアロさんは、ゼニボウさんに、生後 6 ヶ月から、母乳に加えて、離乳食を与え始めるべきだと説明しました。

ユニセフの支援を受けて行われている栄養補助食の支援と子どもたちの定期的な健診、より良い食事習慣の周知によって、ゼニボウさんをはじめとする多くの人々が、こうした困難な時期に、子どもたちにより良いケアを提供することができるのです。

## ◆ ブルキナファソ ～乾燥した大地に実る、女性たちの努力～

サヘル地帯の奥深く、ブルキナファソの北部に、小さなオアシスが現れ始めています。

広大なサハラ砂漠に接し、アフリカ大陸の東西に伸びるサヘル地域。この地域に住む人々は、日々何とか生きのびているといった表現が当てはまるほど苦しい状況に陥っています。しかし、こうした中、ある女性グループが、この乾燥した大地の一角を実り豊かで生産的な‘庭’に作り変えることに成功し、厳しい状況を脱しつつあります。栄養価の低い穀類が主流のこの地域で、女性たちの育てた果物や野菜が、家族の食事や生活に、変化をもたらしているのです。

ブルキナファソは、サヘル地域の9カ国に影響を与えている最近の干ばつの影響を受けている国のひとつです。しかし、この地域の栄養不良問題は、必ずしも食糧不足が原因となっているわけではありません。人々は適切な種類の食べ物を摂っていないのです。つまり、食事の回数を増やせばいいというわけではなく、栄養の摂取の仕方が問題になっているのです。また、ビタミン豊富な果物や野菜は値段が高く、多くのお母さん方は、こうした食材が家族の食事に重要であることを知りません。

### コミュニティが受けた恩恵

女性たちは、農業技術に関する研修を受け、井戸を設置するための資金も得ました。この取り組みは、ユニセフが、欧州連合と共同で行っている、子どもたちの栄養状態の改善を目的として進めている予算 170 万ユーロの事業の一環として、進められています。

この4年間のプログラムで実施される様々なプロジェクトや支援を通じて、最終的には、ブルキナファソ全土の約1500の村々が恩恵を受ける予定です。本プログラムは、緊急支援を目的としたものではありません。食糧危機などの問題が生じたときに、特に子どもたちへの悪影響を最小限に抑えられるよう、ブルキナファソ全域の平時の栄養状況を改善するための支援活動なのです。

作物を選んで順番に育てているので、‘庭’には、一年を通して果物や野菜が実り、女性たちは、コミュニティでさらに積極的な役割を担うようになっていきます。家族を食べさせられるようになっただけでなく、食べきれない作物を売り、収入を得ることができるようになったのです。



©UNICEF/NYHQ2012-0797/Olivier Asselin  
収穫した作物を抱えるブルキナファソの女性。

## 見え始めている“成果”

こうした長期にわたる支援活動を評価することは、まだ、時期尚早<sup>しょうそう</sup>でしょう。しかしながら、このプログラムに参加した母親たちは、すでに子どもたちがより健康に、より活動的になって、学校の成績が良くなり、そして、ほとんど病気にならなくなったと報告しています。

このコミュニティに住む人々は、今、より良い食事を摂り、より良い教育を受け、より経済的に安定しています。人々が待ち望む、“サヘルの砂漠”に<sup>ほんろう</sup>翻弄されない日がくるのも、そう遠くはないはずです。

(出典：ユニセフニュース Vol.235, P4、日本ユニセフ協会 HP「アフリカ干ばつ緊急募金 第78報、第88報」を編集)



## ◆ アフリカ干ばつ緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では、ソマリアとその周辺国を含む「アフリカの角<sup>つの</sup>」地域と、アフリカ中・西部に位置するサヘル地域の子どもに対してユニセフが行う緊急援助を支援する**アフリカ干ばつ緊急募金**を受け付けています。あたたかいご支援よろしくお願いいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座

振替口座:00190-5-31000

口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

\*通信欄に「アフリカ干ばつ」と明記願います。  
\*送金手数料は免除されます。

### 【募金でできる支援例】

3,000円ので支援が…



袋を開けてすぐに食べられ、子どもの栄養不足を改善する  
ペースト状の補助食104袋に変わります。

5,000円ので支援が…



弱った子どもの免疫力を高め、病気ににかかりにくくする  
ビタミンAカプセル5,000人分に変わります。

10,000円ので支援が…



汚れた水を安全な飲み水にする  
浄水器10,416台(52,083リットル分)に変わります。

30,000円ので支援が…



命の危険がある重篤の急性栄養不良の  
子ども4人に60日間治療を行うことができます。

知りたい?

# 知ってこ。ユニセフ

女子教育

2012 年 10 月 11 日は 国連で制定後初の

## ♡「国際ガールズデー」♡

世界の国々、とりわけ開発途上国では女子（18 才未満）の多くが経済的、文化的な理由により学校に通えず、10 代前半での結婚を余儀なくされ、貧困の中で暮らしています。また先進国においても、女子には様々な社会的制約が存在します。しかし、適切な教育と支援を受けることができれば、彼女たちの可能性は無限に広がり、未来は大きく変えられるのです。

こうしたことから、国際社会は女子の持つ可能性に注目し、2011 年 12 月、国連総会において、10 月 11 日を「国際ガールズデー（International Day of the Girl Child）」と決めました。

— 国際連合広報センター HP「お知らせ (2012 年 10 月 8 日)」より抜粋・一部編集 —  
<http://unic.or.jp/unic/news/2788/>

### ☆「国際ガールズデー」に際しユニセフが取り組んでいることは・・・☆

パートナー団体とともに、女の子の人生のあらゆる側面に悪影響を与える人権侵害行為である児童婚の問題と、その根絶に向けた取り組みにスポットを当て、世界各地で、政府や市民社会、他の国連機関や財団などと協力しながら、児童婚の根絶に向けた地道な取り組みを進めています。

社会・経済的支援や法整備・改正支援などを通じて具体的に児童婚の根絶に取り組んだ国は、2011 年時点で 34 カ国にのぼります。インドは最も多い国のひとつですが、1992 年の 54% から 2007～8 年には 43% まで減りました。

ユニセフは児童婚禁止法の導入支援などの法整備のみならず、学校教育を筆頭に、いかに地域の人々に“有益な代替手段”を与えられるかが鍵であり、根絶に賛同できる環境作りが必要だということを示しています。

— 日本ユニセフ協会 HP「お知らせ (2012 年 10 月 11 日)」より抜粋 —  
[http://www.unicef.or.jp/osirase/back2012/1210\\_04.html](http://www.unicef.or.jp/osirase/back2012/1210_04.html)

日本ではあまり考えられないことですが・・・

男の子は学校に行けても女の子は行けない。家の手伝いで学校に行けない。

まだ幼いうちに結婚させられてしまう児童婚など。

世界には様々な状況のもとに暮らす女の子が存在します。

ミレニアム開発目標である、「普遍的初等教育の達成」「ジェンダー平等推進と女性地位」などを達成するためにも、

「女子教育」は 鍵となる大切なアイテムといえるのではないのでしょうか。

「…女子の教育以上に効果的な開発手段は存在しない」

「世界子供白書 2004」まえがき コフィ・A・アナン前国連事務総長



## 世界の子どもたちは今

アンゴラ



アフリカ南西部に位置するアンゴラ共和国は、10年前まで長い長い(約30年)内戦が続いていました。今年は、この数年で最悪の干ばつ被害に見舞われ、食糧不足が深刻です。栄養不良の子どもたちが多くなり、また衛生状態も悪く、ポリオやコレラ等の伝染病も発生しています。5歳にならずに命を落とす子どもの数は世界でも最悪な国の一つとされています。

1

国土は日本の約3倍なのに、人口は日本の7分の1。ダイヤモンドや石油がたくさん取れる国なんだよ。

じゃあ、お金持ちの国なんですよ？ どうして困っているの？

お金を持っているのは一部の人だけ。貧富の差がすごいんだ。

ここは、長い間の内戦で、たくさんの地雷が埋められた危険地帯。取り除くには百年以上かかると言われているんだよ。

2

うわ〜！すごい人数。でも、ここが学校？

土レンガやトタンで出来てるんだ。窓も無いから暗いし。机もイスも無い教室があったり、外で授業をしたりするんだよ。

1つの小学校で2千人〜4千人も児童がいて、早朝から夜遅くまで3交代制で授業する学校もあるんだって。

4千人？

3

ユニセフが新しい校舎を建ててくれたんだ。

CO・OP コアノンロール 1パックで1円の募金になり、手洗い場や給水施設などがつくられているんだよ。

建物や設備だけでなく、先生たちの研修にも募金が使われているんだ。

4

国民の半分が18歳未満の子どもが占める国だから、学校で習った手洗いや衛生習慣が、家庭や地域に広がっていけばいいね！

はい！ ゴシゴシ

キレイ キレイ

ホィホィ 石鹸でキレイに

コアノン スマイルスクールプロジェクトも、第3期がはじまったよ。これからも応援していこう！ トイレットペーパーはCO・OPだよ！



### 第3期が、2012年11月1日にスタートしました！

「CO・OP コアノン スマイルスクールプロジェクト」では、CO・OP コアノン ロール（トイレットペーパー）1パックにつき1円を募金として積み立て、ユニセフによるアンゴラ共和国の“子どもにやさしい学校づくり”を支援しています。2010年にスタートしたこのプロジェクト、2012年11月1日から、第3期が始まりました。今期も引き続き、温かいご支援をよろしくお願いします。

《期間：2012年11月1日～2013年10月31日》

### 第2期の募金額をご報告します！

プロジェクト第2期が、2012年10月31日で終了しました。  
皆様のご支援で集まった最終的な募金額は、

**912万8,901円（約11万4千米ドル※）**

（※1ドル＝80円で計算）

となりました。

この募金はすべて日本ユニセフ協会に送金され、アンゴラの子どものための、教育環境改善のために活用されます。

ご協力に、心より感謝いたします。ありがとうございました。

プロジェクトの詳細は、日本生協連ユニセフサイトをご覧ください。

【URL】 <http://jccu.coop/unicef/smileschool/index.html>

# 「ユニセフ アンゴラ スタディーツアー」 報告

2012 年 10 月 6 日～13 日、「コアノンスマイルスクールプロジェクト」の指定募金先であるアンゴラ共和国（以下アンゴラ）への、スタディーツアーを実施しました。2010 年に続き、第 2 回目のツアーとなります。現地ではアンゴラの状況などを視察するとともに募金による支援の進捗状況を確認し、現地の子どもたちや先生との交流を行いました。

## 1. アンゴラスタディーツアーの概要

(1) 期間 : 2012 年 10 月 6 日～13 日

(2) 視察地: 首都ルアンダとビエー州

(3) 参加者 (敬称略)

|          |       |                 |
|----------|-------|-----------------|
| みやぎ生協    | 鳥田加奈枝 | (地域代表理事)        |
| コープあいち   | 都築慶子  | (組合員)           |
| 丸富製紙株式会社 | 神田達彦  | (東日本営業部 副課長)    |
| 株式会社リバー  | 五十棲義人 | (大阪営業所 係長)      |
| 日本ユニセフ協会 | 千寿満城  | (団体・組織事業部 部長)   |
| 日本ユニセフ協会 | 石尾匠   | (団体・組織事業部 生協担当) |
| 日本生協連    | 永井智宏  | (家庭用品部)         |
| 日本生協連    | 中本芙美  | (組合員活動部)        |

## 2. 主な視察・訪問先

- (1) サント・アントニオ校 (支援校・給水施設)
- (2) ドイス・デ・マルソ校 (支援校・給水施設)
- (3) アントゥネス・カプツソ校 (支援校・教員研修)
- (4) エクイクイ校
- (5) クイト市栄養治療センター
- (6) 教育省



## 3. アンゴラについて

アンゴラでは、約 30 年におよぶ内戦が終わってから、10 年が経とうとしています。石油やダイヤモンドなどの資源に恵まれ、著しい発展を遂げる一方で、経済格差は大きく、物価は異常に高騰しています。

また、国民の約半分が 18 歳未満という偏った年齢分布となっており、子どもも労働力としてみなされる現状があります。また、内戦中、多くの地雷が埋められ、すべて除去するには 100 年以上かかるとも言われています。



今も街中に残る爆破された戦車

子どもの教育に関しても、大きな課題があります。アンゴラの初等教育純就学率は約76%ですが、修了率は約50%と低い数値です。

「スマイルスクールプロジェクト」に寄せられた募金は、アンゴラの小学校の給水施設の整備や教員の研修などに活用されます。今回のスタディーツアーでは、給水設備の完成したビエー州の小学校2校も視察しました。

### サント・アントニオ校（ビエー州） ～学校に手洗い場ができた～



新しい給水施設で手を洗う子どもたち

サント・アントニオ校は、児童数4,587人、教員数71人の小学校です。この学校には、スマイルスクールプロジェクトの募金によって手洗い場ができました。アンゴラでは、衛生に関する意識が全体的にまだ薄く、コレラなどの感染症にかかることも少なくありません。トイレに行った後にきちんと手を洗うことで病気が防げることを、学校で歌を通して学んでいます。

この学校にはユニセフの支援により新しい校舎も建てられ、教室の数は増えましたが、児童数には足りません。今でも木の枠組みにトタンを貼った古い教室も使われています。照明も机もなく、椅子は子どもたちが持参しています。



「コレラの歌」を歌いながら石けんで手を洗う

♪ コレラの歌 ♪  
ちゃんと手を洗おう。  
手を洗わないとコレラになるよ。  
みんなで手を洗おう。  
石けんで洗おう。



募金で新しくできた手洗い場

### ドイス・デ・マルソ校（ビエー州） ～地域の力をあわせて～



完成した手洗い場（一部）

ドイス・デ・マルソ校は、児童数3,504人、教員数65人の小学校です。この学校にも、コアノンスマイルスクールプロジェクトの募金により給水設備が完成しました。訪問時には、感謝をこめて記念のセレモニーをしてくださいました。

ユニセフの支援を受ける前には、地元の住民の手ですべての教室が作られており、今もPTAが学校運営に深く関わっています。ただ、児童数が多いため教室は大幅に不足しており、半分以上のクラスが外で授業を行っています。

子どもたちは、読み書き（ポルトガル語）・算数・美術・音楽・保健衛生を学びます。先生ひとりが受け持つ児童は50～60人と、日本に比べてかなり多い人数です。先生に教えるうえで大切にしていることをお聞きしたところ、「（子どもが自立し生きていくため）まずは読み書き能力を身につけられるよう気を配っている」などの答えが返ってきました。

### **アントゥネス・カプツソ校（ビエー州） ～先生にも教育を～**

アントゥネス・カプツソ校は、児童数 2,180 名、教員数 45 名の小学校です。このプロジェクトの募金で、先生の研修など、ソフト面での支援が行われます。ユニセフの研修を受けた先生お二人に話を聞きました。研修は 4 日間で「子どもにやさしい学校」の理念について学び、学校について自己評価を行うというものです。



屋外での授業風景



ユニセフの研修を受けた先生たち

エルメリンダ先生（25 歳）は、研修を受けてから指導方法が変わり、子どもたちの反応が良くなったと言います。マルガリーダ先生（25 歳）はコミュニケーションのとり方が変化し、男の子と女の子を平等に扱うようになったそうです。

「子どもたちに望むことは？」と聞くと、「勉強を続けてほしい」、「アンゴラの子どもたちに世界で一番輝いてほしい」という答えが返ってきました。

### **エクイクイ校（ビエー州） ～支援がほしい～**



教室は土レンガでできている  
©日本ユニセフ協会／2012

エクイクイ校は、児童数 2,681 人、教員数 69 人で、今回の視察の中で唯一外部からの支援を受けていない学校です。地域住民が持ち寄った材料で校舎を作っています。教室は、地面がむき出しの状態で屋根は穴だらけなので、雨が降るとやむなく休校にするそうです。トイレの数が足りずほとんどの子が外で用を足しています。

この地域に住む方のお宅を訪問しました。テレイラさん（58 歳・写真右）は 4 人の子のお母さんです。土レンガの自宅には、電気はもちろん、泥棒が入るという理由から窓もなく、かなり暗い状態です。3 番目の娘さんは脳に障がいがあります。病院に行くことができないので原因は今も不明ですが、マラリアの後遺症だろうとの話でした。子どもの将来への夢についての質問には、「夢なんてありません。ただ毎日生き延びることだけを考えています」とのお答えでした。



テレイラさん（右）とその家族

### **クイト市栄養治療センター（ビエー州） ～栄養不良の子どもたち～**

ビエー州では、干ばつ被害による深刻な栄養危機が問題となっています。栄養不良の子どもへのケアを行っている市で唯一の栄養治療センターには、毎日のように栄養不良の子が運ばれてきます。センターでは、合併症のある慢性的な栄養不良の子とそうでない子、それぞれの状態にあった栄養強化ミルクを与えてケアを行います。この栄養強化ミルクは



薬の棚にはすき間がめだつ

ユニセフの支援によるものです。設備も職員の力も、地域で一番充実しているはずのセンターなのですが、倉庫や薬棚には、栄養補助食品のほか、注射針とわずかな薬しかありませんでした。薬は本当に症状の重い子にしか使えない、との職員の言葉に、参加者は言葉をつまらせていました。

## 教育省（首都ルアンダ） ～よい先生を育てること～

教育省は、アンゴラの教育に関する政策を担っている機関です。ユニセフと教育省は「子どもにやさしい学校」を全国で展開できるよう、政策づくりの段階から連携しています。現時点では、教員研修プログラムの第1段階として、「子どもにやさしい学校」のコンセプトを理解して、学校ごと自己評価を行うための研修を進めています。この過程で得られたデータを分析し、その後の政策づくりに活かしていきます。実際に研修を担当する教育担当者から、資金や物資が不足する中で研修を進めることの難しさなども語られました。



アンゴラの今後の教育政策について語られた

## 4. まとめと今後の予定

今回の視察では、コアノンスマイルスクールプロジェクトの募金がユニセフを通じて、アンゴラの「子どもにやさしい学校」づくりのために活用されている様子を、実際に確認することができました。その一方で、10年前まで続いていた内戦の傷跡が今も深く残り、格差の問題が拡大していること、子どもたちの学ぶ環境が著しく不足していること等も知ることができました。アンゴラの現状を変えるには、貧しい人の立場に立って自ら考え行動できる人材が、着実に育っていくことが必要です。

今後、コアノンスマイルスクールプロジェクトでは、第2期、第3期の募金が順次ユニセフに送られ、現地で下記の支援が実施される予定です。

### 《今後予定されている支援内容》

|        |                                            |
|--------|--------------------------------------------|
| 2013 年 | 給水施設の完成、学校経営研修の継続、教員・PTAへの研修、学校改善計画プロセスの開始 |
| 2014 年 | 学校経営研修・教員研修の継続、地域参加による学校改善計画の実施            |

### 【参加された方の感想】

今回のスタディーツアーでは、アンゴラの子どもの多さと、彼らの元気な様子に圧倒されました。視察前にこの国について調べたときには、限られた情報の中、「内戦」、「5歳未満児の死亡率」等の暗い言葉が目立ちました。しかし、実際現地に行ってみると、小学校はどこも「超」のつくマンモス校で、子どもたちが本当に元気！当初のイメージとは大きく違いました。アンゴラの子どもたちが、このまま元気に正しい教育を受けて大人になれば、アンゴラは将来すごい国になるのでは、と思いました。

## 生協のユニセフ支援活動 *Partnership*



### 鳥取県生協連 ユニセフ学習会を開催しました

鳥取県生協連は、地域でのユニセフ活動を盛り上げようと、9月24日、鳥取市の総合福祉センター内のさざんか会館で、「ユニセフ学習会」を開催しました。当日は、県内6生協の役職員50名が参加しました。



ユニセフ活動について説明する片岡さん

学習会では、岡山県ユニセフ協会から事務局長の片岡雅子さんを招き、ユニセフに関する基本的知識や、東日本大震災後の支援活動の様子を聞きました。

スタディーツアーでフィリピンやブータンを訪問したときの体験談も語られました。「世界では約4億人の子どもが、水には色がついていると思っています」などの言葉に、参加者は真剣な表情でうなずいていました。

鳥取県生協連は、ユニセフ活動のいっそうの充実を目指し、「鳥取県ユニセフ協会設立準備会」の一員として県協会の設立に向けた準備を進めています。

### 《参加者の感想から・・・》

フィリピン、ブータン王国、いろいろな国で起こっているそれぞれの大変さ、悲惨さを聞き、今自分の暮らしている日々の生活がどれだけ幸せか、実感させていただきました。

これからもいろんな事を学び、なんらかの形でユニセフにかかわっていきたいと思いました。ひとまずはこの冬のハンドインハンドですね！がんばります！

幸せに生きる以前に、「生きる」ことが当たり前ではないという現実に向き合っていかなければいけない。

私にできることはなんだろうと考えさせられました。まずは家に帰って、子どもたちにしっかり伝えたいと思います。



## コープおおいた 平和専門委員会でユニセフ学習会を開催しました

コープおおいたでは、ユニセフについて学び、活動を盛り上げようと、11月15日、平和専門委員会でユニセフ学習会を開催しました。



「手を洗いましょう」「この薬を3錠飲んでください」などの言葉を、絵だけで相手チームに伝えるゲーム。この日のテーマは「本日特売日」でした。



コープおおいたでは、ユニセフ募金が近年減少傾向にあります。背景には、①緊急災害募金への集中、②募金方法の変更（現金募金からOCR募金へ）などがあります。

また、組合員にとって、「ユニセフ」の名前は知っていても、どんなことをしているかわからなかったり、生協とユニセフの関わりや募金方法についてまだまだ知られていなかったりすることもわかりました。そこで、まずは平和専門委員会でユニセフ活動をもっと知ろうと、この学習会を開催しました。

当日は、「生協がなぜユニセフ活動に取り組むのか」や「日本ユニセフ協会とは」などの説明の後、文字を使わず絵だけで意味を伝える「絵だけで伝えて見ましょう」ゲームで、識字教育について考えました。

また、指定募金先であるネパールスタディーツアーの報告を聞いたほか、経口補水塩（ORS）を実際につくって、試飲を行いました。

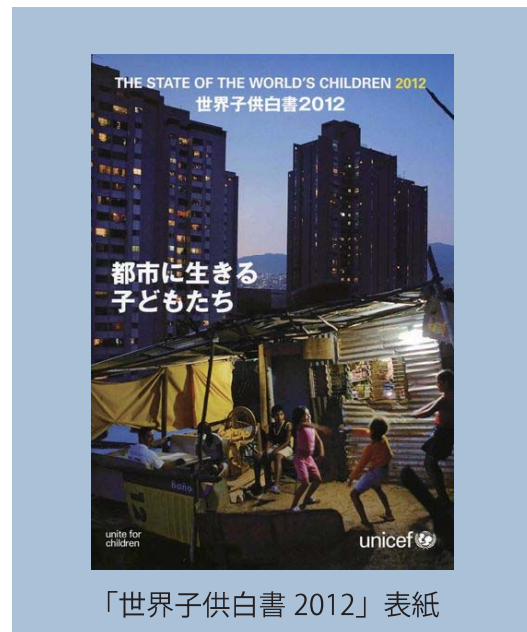


もう お読みにになりましたか

## 『世界子供白書 2012－都市に生きる子どもたち』

ユニセフが毎年発表する『世界子供白書』は、子どもたちを取り巻く様々な問題を、その年のテーマに沿って調査・分析し、対策を提言しています。

2012 年度版のテーマ「都市に生きる子どもたち」では、世界中の都市環境に暮らす十億人を超える子どもたちに焦点を合わせています。現在、世界の人口の半分以上が都市部に暮らし、今後も都市化の進行で今世紀半ばまでには、世界人口の 3 分の 2 以上が都市部で暮らすようになると考えられています。



「世界子供白書 2012」表紙

都市部での生活は農村部に比べ、さまざまな便益が得られ、恵まれていると見られがちですが、スラムや貧しい居住区に暮らす子どもや若者の多くは、その恩恵を受けることができずにいます。本書では都市の中の格差や、基本的な社会サービスからも排除された子どもたちが、日常的に直面している問題や災害の影響なども取り上げています。

『世界子供白書 2012』日本語版は、日本ユニセフ協会ホームページからもご覧いただけます。

[http://www.unicef.or.jp/library/library\\_wdb\\_b.html](http://www.unicef.or.jp/library/library_wdb_b.html)



## 第34回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金 今年のテーマ 「ワクチンで、守ろう 小さな命！」

世界では5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもが年間690万人もいます。このうち、約120万人の子どもが、はしかや破傷風など、ワクチンさえあれば防げたはずの病気で命を奪われています。予防接種を受けることで、病気に対する免疫力をつけることができます。かかってしまうと大変な後遺症が残る病気や、死に至る病気であっても、予防接種を受けて免疫力をつけておけば、病気そのものにかからない、もしくはかかっても治りやすい状態になり、健康に成長する可能性が広がります。

第34回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金は、世界中すべての子どもたちが「防げるはずの病気」により命を奪われないよう、最も困難な立場にある最も支援の行き届きにくい子どもたちにワクチンを届けるため、みんなの“手と手をつなぐ”ことを目指して展開していきます。



© UNICEF/SRLA2008-0005/Johansson

### ユニセフ ハンド・イン・ハンドとは

ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金の始まりは1979年の国際児童年にさかのぼります。この年は、日本国内で開発途上国の子どもたちへの関心が高まり、ユニセフ支援の輪が大きく広がりました。世界の子どもたちへの共感を高め、協力を推進していきたいという願いで始まったのが、全国一斉の「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」です。

“ハンド・イン・ハンド”とは、世界の子どもたちのしあわせと明るい未来を実現させるため、文字どおり“手に手を取って”一人ひとりがボランティアとして参加するユニセフ募金活動です。毎年11月と12月がハンド・イン・ハンド実施期間となっており、これまでにのべ60万人以上のボランティアの方々に学校や職場、家庭、そして街頭でこの活動に参加していただきました。昨年度は1,205もの団体・個人から合計47,494,440円のユニセフ募金が寄せられました。今年も、多くの皆様にユニセフ活動にご賛同いただき、ハンド・イン・ハンドに参加していただけることに感謝いたします。（※今年の参加申込は2012年12月7日をもちまして締め切らせていただきました。）また、生協店舗や街頭でハンド・イン・ハンドの募金箱を見かけたら是非ご協力をお願い致します。

【詳細はこちらから】 <http://www.unicef.or.jp/cooperate/handinhand/>

## ぽむぽむ広場

### 編集後記

- ◆ ある日突然、生活の場が「前線」になってしまった、シリア北部の街・アレッポのことがずっと気になっている。この地名を知るきっかけは、この街の名がついオリーブオイル石けんと出会いに始まる。岩を削ったような石けんは、色も形も古代遺跡のかけらのようで日本でも手に入った。ユネスコの世界遺産に登録されている旧市街のスーク（市場）も戦闘の被害をうけている。いつまで危険と隣り合わせの生活が続くのか。他国へ逃れ支援を必要とする人々も増え続けている。石けんも小さくなってきた。
- ◆ 繰り返し伝えられる「EU」のノーベル平和賞受賞のニュースに、「ユニセフだって受賞(1965年)しているよ」と、テレビに向かってひとりごと。戦後15年に及ぶ日本への支援が終わった翌年に、ユニセフがノーベル平和賞を受賞したことは、私がユニセフを語るとき伝えたい出来事のひとつになっている。

ユニセフ\*コープネットワーク

**ぽむぽむ通信**

No. 58 2012年12月11日発行

編集 **グループ ぽむ・ぽむ**

スタッフ・編集／小池・土橋・浜崎・松本・山本

石尾・中村・中本

イラスト／蜷沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 ユーブ・ラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○次号は、2012年3月15日発行予定です。

### ぽむぽむ通信・ひとことカード

今回の「ぽむぽむ通信」はいかがでしたか？ ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。  
次号以降の参考にさせていただきます。

---

---

---

---

---

生協名：\_\_\_\_\_

氏名（ペンネーム可）：\_\_\_\_\_ 《 組合員・役職員・その他 》

ご協力、ありがとうございました！

右記の宛先までお送りください。 宛先：日本生協連 組合員活動部 FAX：03-5778-8125

MAIL： [kumikatsu@jccu.coop](mailto:kumikatsu@jccu.coop)